

令和7年12月22日

保護者の皆様

吹田市立佐井寺小学校

校長 勝田 宣孝

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月に各ご家庭へ個人ごとの結果をお渡しいたしました。また、吹田市では、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、6年生のみを対象とした調査であり、教科は、国語と算数、理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた児童の強みや課題を明らかにし、今後の教育活動の改善へ反映していくことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生へは、よりきめ細やかな指導ができるよう取組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針の参考にさせていただきますようお願いいたします。

Ⅰ 教科に関する調査結果の分析

○国語科における成果と課題・今後の改善

<成果>

平均正答率は、大阪府平均および全国平均を上回る結果となっています。日頃の学習の成果が得られているものと考えています。全体的に、文章を正しく読み取って設問に解答する力を身に着けることができています。

<課題と今後の改善>

漢字の誤りを正しく書き直す設問においては、正答率が全国平均を下回っていました。日常的に漢字を意識して使用したり、熟語を読み書きする際には、その漢字の意味をしっかりと捉えたりする必要があると考えています。読書の機会を増やすことも、語彙力を伸ばす方法の一つであると考えています。

また、複数の資料から要点を押さえて、条件にあった文章にまとめる力がやや弱い傾向があります。短い文章であればあきらめずに書こうとする姿勢も見られるので、いきなり長く書くのではなく、大事なところに気をつけて文章をまとめる指導を増やしていこうと考えています。

○算数科における成果と課題・今後の改善

<成果>

算数科においても、平均正答率は、大阪府平均および全国平均を上回る結果でした。日頃の学習の成果が得られてると考えています。今年度の佐井寺小学校では、「絵や図を用いて正しい立式へ」というテーマで算数の授

業づくりの工夫改善に努めています。文章問題において、正しい立式をすることのできている児童が多くみられたことも、取組みの成果であると感じています。

<課題と今後の改善>

5つの四角形の中から台形を選択する設問について、全国および大阪府を下回る正答率でした。台形は向かい合う一組の辺が互いに平行である図形ですが、その平行になっている辺が左右になったり上下で上底の方が長くなっていたりすると台形として認識できなくなることが判明しました。見た目にとらわれず、図形の性質をしっかりと理解し、その性質を基準に見分けて分類する力を育てる指導に力を入れていきたいと考えています。

また、分数についての課題も明らかになりました。計算はできるものの、その意味まで理解していないのではないかと推察される解答が見られました。低学年のうちから、具体物や絵を使いながらしっかりと分数のイメージを持つことができるようにする指導とともに、児童が図や数直線を使いながら他者へ説明する場面を設定することで、より定着を図りたいと考えています。

○理科における成果と課題・今後の改善

<成果>

理科においても、平均正答率は、大阪府平均および全国平均を上回る結果でした。教科の特性上、実験のような活動も多いため、経験を通して学んだことがしっかりと定着し、正答につながっていると考えられます。また、設問が文章に加えて図や表もあったため、算数科で取り組んでいる「絵や図を用いて正しい立式へ」というテーマで授業改善を行っている成果も反映され、視覚的に題意を理解することにもつながったと考えられます。

<課題と今後の改善>

記述問題において、実験の結果から新たな問題を見つけ、疑問文として表現する設問に課題がありました。知識として内容は理解できているものの、“新たな問いを生み出す“という経験が不足しているのではないかと感じられる解答が見受けられました。授業の中で、教師主体の発問になりがちであるところを、児童の疑問を引き出し、不思議に思ったことを言語化する場面設定をするなど、指導の工夫改善を行っていきたいと考えています。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【基本的な生活習慣・家庭環境】

◎同じくらいの時間に寝て、同じくらいの時間に起きることができている児童が多く、基本的な生活リズムができています。

【家庭学習】

◎宿題や課題など、与えられた学習については取り組めますが、自分で学び方を考え工夫していくことに課題があります。

◎家庭での学習へ取り組む時間については、全国平均をやや上回っていますが、自主的に家庭で学習を進めている割合についてはかなり低い結果でした。2学期より、自分で宿題や課題をする計画を立てる取り組みを行っていますが、家庭学習でも計画を立てて学習する習慣をつけ、自分で意図をもってやり遂げる力をつけていく必要があると考えています。

【自分自身に関すること】

- ◎「自分にはよいところがある」「先生はよいところを認めてくれる」「人の役に立つ人間になりたいと思っている」という設問に対しては、多くの児童が肯定的に回答しています。
- ◎「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という項目で、非常に多くに児童が肯定的に答えている。継続して行っている、いじめ防止授業の成果だと考えています。
- ◎「困りごとがあるときにいつでも（先生に）相談できるか」という項目では、肯定的回答が全国平均を下回っており、先生や学校にいる大人にいつでも相談しやすい環境や雰囲気づくりをさらに進めていく必要があると考えています。

【地域とのかかわりについて】

- ◎地域や社会をよくするために何かしたいという項目については、肯定的回答が全国値より大きく下回っており、地域や社会とのかかわりを持つ具体的な取組みを行っていく必要があると考えています。

【授業や学習に関すること】

～ICTに関連して～

- ◎ICT 機器の使用頻度および活用による学習内容の理解度については、全国よりやや下回るものの、これまでの取組みが浸透し、学習に有効活用されていることがわかりました。

～学習に関連して～

- ◎学習に関しては、これまでに学習したことを生かして次の学習につなげることや、学習の見直しについては課題があることがわかりました。お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるかという設問に対しては、多くの児童が肯定的に回答しており、学校教育目標に掲げている「共生」の姿が見られました。

～国語科の授業について～

- ◎国語科の内容を理解している児童は8割を超えていますが、国語科の勉強が好きかという設問については、肯定的に回答する児童が少ないことがわかりました。また、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、文章を読み取り、文章と図表などを結びつけ必要な情報を見つけたりすることにも課題があります。

～算数科の授業について～

- ◎内容の理解は全国をやや上回っていますが、好きだと感じる児童は半数をやや超える程度でした。自分なりに課題を見つけ、試行錯誤しながら学び続ける児童の姿をめぐして、授業の工夫改善をさらに進めていきます。

～理科の授業について～

- ◎内容は理解し、大切だと思っているが、好きだと思える児童は全国平均をやや下回っています。自分で予想をしたり、観察や実験の結果からわかったことをまとめたりする活動をさらに積み重ねていく。

3 今後の取組み

《学校では》

- ◎学習の基礎的な力の習得については、一定の成果が見られました。これまでの授業の取組みが反映されていると感じています。一方で、教科・学習を好きだと感じている児童や主体的に学びに向かう児童の数が少ない傾向にあります。基礎的な力を身に着ける指導を大切にしつつも、授業改善の必要があると考えています。教師が主導する講義型の授業の割合を縮小していき、児童が自ら課題を見つけ、問いをもって学びに向かうなど、主体的に学ぶことができるような授業づくりの研究を進め、工夫改善をしていきます。

◎ICTの活用について、これまでの取組みが反映された肯定的な結果となりました。今後、生成AIの活用など、新たな課題が生じてくる可能性があります。吹田市のデジタルシチズンシップ教育（DC教育）に継続して取り組み、情報モラルやICT活用能力の向上を図っていきます。

◎困ったことや不安があるときに、教員へ相談できると感じている児童の割合が少ないことは、学校としての課題であると感じています。一人ひとりの児童と丁寧に向き合い、話に耳を傾け、思いを汲み取る意識をより高めていきます。

《家庭では》

◎学校生活において十分な力を発揮するためには、基本的な生活リズムが整っていることは不可欠です。今回の調査では、児童が基本的な生活リズムをしっかりと身に着けることができているという結果を得られました。ご家庭の支えの賜物であると感じています。引き続き、お力添えのほどどうぞよろしくお願いいたします。

◎地域とのかかわりに関する設問において、肯定的回答が低い結果でした。本校区では、様々な地域行事が盛んに行われています。学校としても地域や社会とのかかわりを持つ機会を具体的に進めてまいります。ご家庭でも機会を見つけ、児童が地域行事へ参加するよう働きかけくださいますようお願いいたします。

◎本調査を通じて、児童の主体性に課題があることがわかりました。学校としては、授業や宿題の出し方を工夫するなど、児童の主体性を育む取組みを進めてまいりますので、ご家庭では、家庭学習において「家庭学習の手引き」を活用いただくなど、学習の習慣づけにお力添えをお願いいたします。

◎これまで様々な場面でかけていただいている家庭での称賛や励ましの声掛けが、児童の活動の源となっています。自己肯定感を更に高めていく上でも、引き続きお力添えをお願いいたします。

◎家庭と学校が、しっかりと手を組み同じ歩調で歩みを進めることが、児童の成長へと大きくつながります。今回の調査を通じて明らかとなった児童の課題に対する取組みへ、ご協力いただきますようどうぞよろしくお願いいたします。